

一般財団法人京都ユースホステル協会

2024年度事業計画書

期間:2024年4月1日~2025年3月31日



“ Say Hi to the world ” ~旅の持つ力~

若者が世界(旅)の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町29 宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289
URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

目次	1
はじめに	2
国際ユースホステル連盟採択基準	3
京都ユースホステル協会が目指すカタチ	4
2024年度の重点取り組み	
事業活動	
I. ユースホステル活動	5 - 6
II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	7 - 8
III. ユースホステル関連活動	9 - 10
IV. 天橋立ユースホステル	11
V. 組織運営	12
予算概要	13
組織概要	14

はじめに

昨年はコロナ禍から通常的生活への回復により、宿泊利用者数もコロナ禍前に戻ってまいりました。

そうした中で、物価の上昇や必要な人員補充の困難、新しい宿泊管理システムの運用など、持続可能で効率的な施設運営や取り組みを進める為にこうした課題の解決が早急に求められております。

2024年度は、これらの課題を速やかに解決するために、上半期においては地域や若い世代の成長に貢献できる施設運営や取組を行う人員の補充など、運営体制の整備や新しいスタッフの育成等を優先して取り組んでまいります。

その為には、課題となっている宿泊費を含む施設使用料金の改定を実現し、得られた財源で必要な人員の採用や補充を行う為の給与等の処遇改善が不可欠となっております。

その為、年度前半には京都市との協議継続をして行い早期にこうした課題を克服し、新たに加わる人材の育成と成長を図ります。また、年度後半には運営環境の変化に対応しながら様々な活動者や団体、地域との連携を深め、ユースホステルの存在意義や価値を高めると取り組みを進めると共に、京都観光の分散化にオーバーツーリズムの緩和や地域の賑わい創出にも貢献してまいります。奥嵯峨や清滝、高雄や周山等の魅力に触れる体験的な事業にも取り組み、地域で期待される役割を果たしてまいります。

その他には、京都市の施設のあり方の検討会で宇多野ユースホステルが取り上げられておりますが、行政の財政負担を少なくしながら公益的な役割を果たすことのできる施設運営のモデルを宇多野ユースホステルから示してまいります。

また、1月に発生した能登半島地震でも明らかになった子どもやお年寄りなどの弱者にとって負担の少ない避難生活を過ごせる、そうした施設の必要や重要性について認識が広がりました。今後発生が懸念される南海トラフ地震等の大規模災害が発生した際の宇多野ユースホステルでの避難者受入れ等を含め、地域の自治会や行政機関等と連携し、その際の果たすべき役割などについて理解を深め、地域の安心・安全を担える施設としてその機能や施設、設備等の改善を進めるためにも施設使用料金の改定が必要となっております。

まだまだ物価上昇の終わりが見通せない厳しい運営環境ではありますが、職員スタッフ一同が力を合わせ、こうした変化に対応しながら今後も取り組みを進めてまいりますので、引き続き関係者の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

専務理事 高田光治

ユースホステル活動の現代的解釈

『3つの原則と4つの価値基準』

《3原則》

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

《4つの価値基準》

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

京都ユースホステル協会が目指すカタチ

say **HI** to the world - 旅の持つ力 -

若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援しています

約 100 年前、経済的格差や公害問題などの健康被害による学びや気づきの機会損失を憂いたドイツ人教師“リヒャルト・シルマン”が、そういった社会環境の中で子ども達を野外に連れ出し、「移動教室」という新しい手法で子ども達の学びや気づきを取り戻しました。ユースホステル運動の始まりです。

それ以降も世界では社会的・経済的に深刻な問題や解決すべき課題が生まれてきました。コロナ禍もこれまでの生活を大きく変えた世界な出来事でした。感染リスクからのストレスや閉塞感を感じる生活の中で、人と人とのつながりを感じる対面での交流が希薄化し、特に青少年にとっては学びや成長の機会となる多くの貴重な体験や交流の機会を失いました。

現在は、そうした貴重な時間や機会を取り戻すべく様々な取り組みが活発に行われています。

私たちもユースホステル運動の原点や役割をふり返り、変化に対応した多様な学びや交流の機会を提供する中で、ユースホステルの新たな意義や役割、価値の創造に取り組みます。

2024年度の重点取り組み

- ① 公の施設としての宇多野ユースホステルの意義や価値を高める取り組みを行う。
- ② 厳しい雇用環境や求められる役割を果たすことができる運営体制を再整備し、宇多野ユースホステルの利用回復や食堂運営の収支の改善を行う。
- ③ 持続可能な組織運営のための新たな方向性や事業展開の可能性や仕組みについて検討を行う。

事業活動) 1. ユースホステル活動 (青少年・旅行事業)

コロナ禍も収束し、それまでの生活や旅を楽しむ姿が急速に戻りつつある中で、青少年の活動や旅行事業といった出会いや学び、交流の機会を積極的に提案していく状況を迎えております。

しかし、人員の補充が思うように進まない中で宇多野ユースホステルの通常の運営を維持すると共に、利用回復と京都市の施設のあり方でも問われておりますその「意義や役割」を伝える取り組みが求められております。そうした状況において今までと同様の事業活動や取り組みを行うには、人員の早期補充と育成が急務となっております。

そこで、今年度はこれまでの事業や取り組みを見直し、体制が整うまでは一時的に事業活動の整理や縮小といった状況も発生いたしますが、現在まで宇多野ユースホステルを利用して行ってきた青少年事業や国際交流事業については、人員の重点配備などの取り組みにより宇多野ユースホステルの事業活動として継続実施するなどの工夫に努めます。

事業・取り組み	青少年事業/ 旅行事業	宇多野ユースホステル
ユースホステルを利用した交流や体験活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ユースホステルから旅を贈ろう事業 ・インターンや中高生の受入事業 ・宿泊者と地域との国際交流アレンジ ・地域の方と楽しむ宇多野 Open Day ・ゆったりした時間を楽しむ焚火庵プログラム ・初心者向けのアウトドア体験 Step Up Camp ・ワールドディナー交流会 		 ○
外部団体と共催する体験活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーキッズ京都 ・ガリレオサイエンス教室 	○	
まいまい京都事務局業務	2024年3月末で 終了	
まいまい京都企画旅行・旅行手配	○	

[活動内容]

1. まいまい京都との業務委託契約終了と新たなパートナーシップ

実行委員会形式で 2011 年にスタートしたまいまい京都は、当協会が京都事務局を務めツアーの受付業務や資料準備、申請作業ほかの業務を担ってきました。そうした中で、2023 年 4 月にまいまい京都が合同会社として新たなスターを切り、当協会は合同会社まいまい京都と業務委託契約を交わし、引き続き事務局業務を務めてまいりました。

しかし、今年度より多くの業務をこなす担当者を当協会として配置する余力がない状況やまいまい京都が法人化し自立した組織となったことから、旅行企画や手配業務に絞った業務受託とするなどの調整を行ってまいります。

また、宇多野ユースホステルと連携し地域の魅力を紹介するオリジナルツアー企画等において、新たなパートナーとしての連携を図ってまいります。

2. 共催事業の継続実施・支援

- ネイチャーキッズ京都
小学生を対象に年間を通じた野外体験プログラム。企画・運営は大学生ボランティアリーダーが主体的に行い、リーダーの成長も促します。
- ガリレオサイエンス教室
中学生までを対象に、自分で考えて行動でき、相手を思いやって接することができる「人間力」を育むことを大切に理科実験教室です。
- 日本ユースホステル協会（JYH）の事業助成金を活用した子ども達のユースホステル体験活動事業への助成



事業活動) II. 宇多野ユースホステル (施設運営)

昨年度は新型コロナウイルス感染症が収束に向かい日常が戻る中で、宿泊の回復が急速に進み人員の補充等の体制が整わない状況での運営を強いられました。

今年度は安全安心な宿泊受け入れのための人員確保等を含めた環境整備に優先して取り組み、持続可能な質の高い運営の維持を図る為に必要な利用料金の改定実現に向けて、協議を行ってまいります。

その上で、昨年積み残した地域や世代をつなぐ取り組み等を継続しながら、引き続き海外の学生団体や国内の教育旅行、スポーツ団体等の青少年団体の誘致を進めると共に、宇多野ユースホステルとして地域や社会の課題に応える役割や意義を果たす取り組みを進めてまいります。

[事業分野別目標]

- 年間宿泊者数 : 35,000名 (23年度実績見込み: 34,000名)
- 年間学校団体利用数 : 130校 (" : 126校)
- 年間スポーツ団体利用数 : 70団体 (" : 65団体)

【年間宿泊者数】

期 間	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計	ベッド稼働率
2019年度実績	10,227名	9,034名	9,315名	4,723名	33,299名	53.7%
2020年度実績	173名	1,451名	2,295名	1,647名	5,566名	9.0%
2021年度実績	411名	1,424名	4,653名	1,920名	8,408名	13.6%
2022年度実績	3,150名	4,410名	7,996名	3,450名	19,006名	30.6%
2023年度見込	8,468名	9,708名	10,139名	5,688名	34,000名	49.2%
2024年度目標	9,200名	8,900名	10,550名	6,350名	35,000名	56.4%

[活動内容]

1. 青少年が交流や自己表現できる場や機会、社会課題に寄り添う宿泊事業の実施

- ・ 貧困問題やヤングケアラー等、社会的課題に取り組む中間支援団体と連携し、旅に出る機会が難しい青少年を対象とした旅を贈る宿泊企画の実施
- ・ 親元から離れて“子どもたちだけ”の宿泊体験プログラムの実施
- ・ 国内外の大学生インターンシップや地元支援学校、中学校の就労体験の受入
- ・ 全国のキーとなるユースホステルと連携しての取り組みや活動のPR

2. 地域の利用促進と交流の機会の創出

- ・ 夜の交流イベント実施や庭園整備等における市民ボランティアの募集
- ・ ワールドディナーや焚火庵など地域の方や市民が日帰り参加できる活動やイベントの実施・PR
- ・ 地元製品の販売や交流の場として「うたのユース OpenDay & マルシェ」の開催
- ・ 市民にもユースホステルを身近に感じ利用してもらえる宿泊プランやキャンペーンの展開
- ・ 京都市の北西エリアの魅力紹介ツアーの企画や実施のための連携を模索し、京都観光の分散化や地域の賑わい創出、ユースホステル宿泊の特色づくりや魅力化を推進

3. 宿泊誘致のためのオンライン集客の強化

- ・運営するウェブサイトのリニューアルや独自予約サイトの改善、口コミや情報発信の充実
- ・大学生サークル等、ターゲットを絞った SNS を活用したオンラインキャンペーンの展開
- ・オンライン予約における魅力的な宿泊プランの作成販売と SNS との連動

4. 運営業務の効率や働く環境の改善に向けた取り組み

- ・顧客管理システムの活用による予約処理や誘客の取り組み改善
- ・業務処理の更なるデジタル化と業務の整理と細分化によるリモートワークの活用
- ・運営業務の効率化や作業負担軽減のための機器の導入やシステムの活用
- ・運営や事業活動の取り組み支援のための活動者との連携強化やボランティア等による支援の仕組みづくり

事業活動) Ⅲ. ユースホステル関連活動 (食堂・物販)

食事提供において「コロナ禍は外食を控えて宿で取る」という流れも、アフターコロナとなった昨年度は再び泊食分離傾向への変化が見られました。こうした状況に対応するために、宿泊される顧客の対象別に対策を絞り、顧客満足度を高めながら食事単価を上げる等の総合的な取り組みにより収入増を図ります。

また、原材料費の高騰に対応するために朝食においても料金の値上げを実施いたします。

ユースホステルの国際的なイメージとして定着してきた「ワールドディナー」を引き続き実施し、宿泊者以外の日帰りの方やリピーター利用を増やし、地域市民に向けてユースホステルの魅力や認知度向上に努めると共に、増収に努めます。

[事業分野別目標]

■ 年間食事提供数：夕食 15,373 食／摂取率 43.9%

(23 年度実績見込み：15,805 食／摂取率：46.5%)

朝食 26,159 食／摂取率 74.7%

(23 年度実績見込み：22,786 食／摂取率：67.0%)

夕食数	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計	摂取率
2019 年度実績	6,657 食	4,249 食	6,493 食	1,653 食	19,052 食	57.2%
2020 年度実績	57 食	631 食	1,287 食	704 食	2,679 食	48.1%
2021 年度実績	170 食	866 食	3,379 食	948 食	5,363 食	64.0%
2022 年度実績	1,815 食	2,638 食	5,992 食	1,912 食	12,357 食	60.1%
2023 年度見込	4,388 食	3,212 食	6,092 食	2,113 食	15,805 食	46.5%
2024 年度目標	4,920 食	2,579 食	6,271 食	1,603 食	15,373 食	43.9%

朝食数	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計	摂取率
2019 年度実績	9,022 食	7,169 食	8,239 食	2,372 食	26,802 食	80.5%
2020 年度実績	101 食	1,001 食	1,626 食	997 食	3,725 食	66.9%
2021 年度実績	233 食	1,043 食	3,999 食	1,311 食	6,586 食	78.6%
2022 年度実績	2,504 食	3,292 食	6,865 食	2,519 食	15,180 食	73.8%
2023 年度見込	6,350 食	5,396 食	7,780 食	7,699 食	22,786 食	67.0%
2024 年度目標	7,648 食	5,584 食	8,713 食	4,215 食	26,159 食	74.7%

[活動内容]

1. 食事収益増を目指す取り組み

- ・一般個人：一定数で食事を希望される層に向けて料金アップしたメニューの提供
- ・スポーツ団体：通常メニューにプラスアルファできるボリュームアップメニューの提案
- ・修学旅行団体：スタンダードメニューとして料金アッププランを提案
- ・海外団体：事前予約なしでその場で提供できる食事メニューの提供

2. 世界を味わう「ワールドディナー」の継続実施

- ・ 宿泊者だけでなく日帰り顧客の利用増
- ・ 閑散期や平日開催による食事提供の分散化
- ・ ドリンク等サイドメニュー、世界のお菓子や缶詰等販売物品の充実
- ・ 満足度向上のためイベントや地域の物産販売等の同時開催

3. 焚火庵と連動した体験プランや交流企画の開発

- ・ 企業研修やゼミ合宿等グループ宿泊誘致と連動したプランの販売
- ・ 家族や当日個人でも参加できる相席焚火プランや焚火バー等の実施
- ・ 野外映画上映やトークイベント等の定期開催



事業活動) IV. 天橋立ユースホステル (施設運営・食堂・物販)

京都府北西域のユースホステル活動の拠点として、無償貸与による青少年の野外活動の広いネットワークを持つポジティブアース・ネイチャーズスクール (PENS) との運営委託を継続し、数少ない日本海に沿ったユースホステルの旅の滞在拠点として施設運営の維持、活用に努めます。

また、昨年の運営者変更に伴う運営上の引継ぎや課題も徐々に解消され、今年度は年度当初からの利用増も見込まれ、通年での特徴ある事業の実施や地域と連携した企画や滞在プランの取り組みも進めてまいります。

一方、施設や設備の老朽化が進み修繕や改修費用等の負担が増加しており、今後の大規模修繕等の発生による運営終了のリスクは高まっております。京都府や宮津市、地域の団体とも連携し、将来を見通した京都府北部でのユースホステル運営の検討が必要となっております。

[事業分野別目標]

- 海の京都や天橋立や里山、舟屋等の地域の景観や特色を活かした宿泊誘致
年間宿泊目標：2,900名 (2023年度宿泊見込み：約2,400名)
- 食事摂取目標：夕食・・・1,200食 (2023年度見込 980食)
朝食・・・1,440食 (2023年度見込 1,170食)

[活動内容]

1. 利用状況に合わせた効率的な運営の取り組み

- ・繁忙期や閑散期、週末や平日等の利用や予約の変動等の状況に合わせた休館日の設定等を行い、運営環境の改善や効率的な運営を行う。
- ・夏休みや春休み等の学校が休みの期間には、学生ボランティアやアルバイト等の活用を行い運営体制の充実を図る。
- ・野外活動等の団体や地域の観光協会等のネットワークを活かした誘致や特色のある宿泊プラン等を提示し、宿泊増を図る。

2. 野外活動等のスキルを活かしたプログラム開発や提供

- ・これまで取り組んだフィッシングキャンプ等の他、里山や海のアクティビティーを取り入れたプログラムの提供を地域の資源を活用して行う。
- ・北陸から山陰方面の日本海を旅するライダーやサイクリストの滞在の魅力を高めるサービスの開拓や提供、交流の機会づくりを通じた個人旅行者等の誘致の促進する。
- ・地域で活動する団体や施設と連携した体験活動やプログラムの開発、提供による滞在の魅力アップを進める。

4月	桜で日本酒イベント	30人定員
5月	子ども自然体験事業	20名
7月	真名井神社関係者訪問イベント	60人
8月	夏の天橋立いっついキャンプ	
12月	冬の天橋立いっついキャンプ	
3月	春の天橋立いっついキャンプ	
年間通して世屋高原ベースキャンプ (年10回)		

事業活動) V. 組織運営 (総務)

国内外の旅行が自粛されていたコロナ禍から一転、昨年4月からは旅行の回復・活発化が見られます。そういった急激な変化の中で、国内では人手不足が慢性化し深刻な社会問題となっている状況は、宇多野ユースホステルにおいても発生しており、利用状況に合わせた適正な運営体制を整えることが出来ないために受け入れ制限を行わざるを得ない状況が生まれており、状況の改善が急務となっております。

同時に、適正な体制を整えた上で健全な運営が行えるように、2008年のリニューアル以降一度も改定されていない宿泊料金等の使用料金の改定が必要となっており、今年度には実現されるように引き続き京都市との交渉を続けてまいります。

他には、限られた人員での運営を継続するため旅行事業の整理・縮小の他、主な活動がユースホステル運営に集中せざるを得ないなど、今後の新たな方向性や事業活動の可能性についても検討してまいります。

[事業分野別目標]

- 運営体制の再整備に向けた多様な人材確保と手段の活用
 - ・ 外国人の職員雇用やすきまバイト、おてつたび等の超短期間・短時間アルバイトの活用
 - ・ 職員の週3日勤務や一日6時間勤務といった多様な働き方の導入
- 宇多野ユースホステル運営条件の見直しを京都市と継続協議
 - ・ 宿泊料金の上限見直しや休館日の設定ほか、経済状況や社会環境の変化に対応できる運営条件への見直し協議
- 持続可能な組織運営のための新たな方向性や事業展開の検討
 - ・ 宇多野ユースホステル・天橋立ユースホステルの他に、新たにユースホステル運動を行っていく自立性・収益性を見込める活動拠点の確保や取り組みの検討



Kyoto Utano Youth Hostel 京都 / 宇多野ユースホステル

予算概要

〔予算概況〕

昨年度からの欠員補充が難しい状況が続く中、“採用条件や処遇の改善”や“人材確保のための施設利用料の改定”を実現し、早急の運営体制の整備を進めるまでは、現行の体制で業務の整理や宿泊受入れ等の資源も踏まえた現状維持の取り組み予算としております。

京都市との協議により宿泊料金等の改定が実現する場合は、補正予算等により給与や処遇の改善を行い、人員の補充を図ります。そして、新たな人員の戦力化が進められる年度後半には、目標や計画に掲げた課題解決や事業の取り組みを推進する予算としております。

もし、条例で定められている施設使用料の改定が実現できない場合は、現状の運営維持で手一杯の体制となるため、宿泊受入の制限等も必要となり、更なる宿泊利用の増加や増収を図ることが難しくなるなど、物価上昇を含めた変化に対応できない状況が見込まれます。

そういった中で、宇多野ユースホステル会計はコロナ禍前の 2019 年度を上回る利用料収入（123,077,000 円／対 19 年度実績 111.9%）を計画しております。また、自主事業である食堂運営では物価上昇への対応として、4 月より朝食料金の改定（50 円アップの 800 円／修学旅行除く）を行い、年々摂取率が低下する中でもプラスの運営（収支差額：1,185,000 円）になるように努めます。

他方で、まいまい京都との業務委託契約を終了する旅行事業においては、委託料収入の減少に伴い、▲652,000 円の収支差額となっております。

その他、引き続き運營業務委託契約で運営を継続する天橋立ユースホステルについては、現地での宿泊料収入等と同額が委託料となるため、収支差額は±0 円となります。

最終的に、2024 年度全体の収支差額は 1,514,000 円、正味財産期末残高は 64,730,556 円を計画しております。

〔経営実績の推移〕

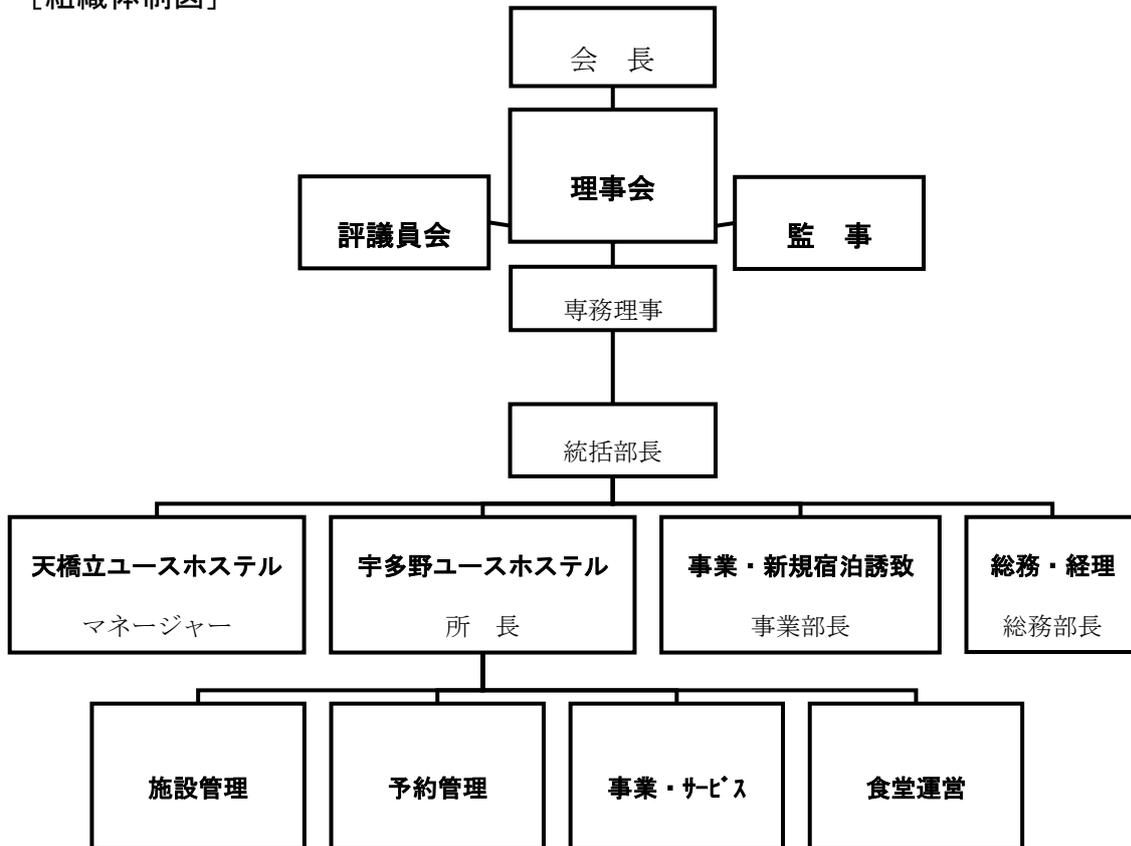
	19 年度実績	20 年度実績	21 年度実績	22 年度実績	23 年度見込	24 年度予算
経常収益（売上）	195,286,399	101,433,357	95,289,810	131,099,672	187,475,835	203,721,000
ユースホステル活動及び関連活動	55,006,688	16,595,670	31,639,084	38,875,848	52,642,007	57,384,000
指定管理業務及び YH 運営	131,250,648	75,284,079	55,633,992	83,494,643	126,852,692	135,870,000
組織運營業務	9,029,063	9,553,608	8,016,734	8,729,181	7,981,136	10,467,000
経常費用（費用）	187,225,738	116,117,535	105,938,254	146,617,547	183,346,364	202,207,000
ユースホステル活動及び関連活動	50,501,462	19,842,037	24,168,098	40,466,406	52,858,829	57,610,000
指定管理業務及び YH 運営	129,376,348	89,241,288	74,595,559	97,618,284	121,774,705	134,133,000
組織運營業務	7,347,928	7,034,210	7,174,597	8,532,857	8,712,830	10,464,000
当期経常増減額（経常利益）	8,060,661	▲14,684,178	▲10,648,444	▲15,117,875	4,129,471	1,514,000
経常外増減額（経常外利益）	0	0	▲9,311	▲181,272	0	0
当期正味財産増減額（純利益）	8,060,661	▲14,684,178	▲10,657,755	▲15,699,147	4,129,471	1,514,000
正味財産期末残高	100,128,165	85,443,987	74,786,232	59,087,085	63,216,556	64,730,556

組織概要

[組織]

早急な人員確保と現状を打開するために枠を超えた協働と新たな取り組みに挑戦し、ピンチをチャンスに変え、組織と個人の更なる成長と実績回復を目指します。

[組織体制図]



[協会役職員数]

評議員：7名、理事：8名、監事：2名、職員：24名（アルバイト・パート含む）

[協会名]	一般財団法人 京都ユースホステル協会
[代表者の役職氏名]	会長 堀場 厚
[財団設立]	1968年2月12日 ※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
[協会所在地]	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
[電話番号]	075-462-2312（代表）